

ひがしなかがわ に よ う る こ う じ

平成 22 年
第 51 号
6 月 10 日 発行

発 行 者



医療法人社団
小島医院
高岡市東中川町6-10
TEL 26-1020
FAX 26-0573

<http://www.kojimain.com>

だいもん凧まつり

小島 明



五月十五・十六日、庄川河川敷で第三十二回越中だいもん凧まつりが行われた。当院の凧は、瑞龍寺山門の仁王像（吽形）である。十五日(土)午後二時に試しあげしてみたが、風もよく、空高く上がった。明日の本番では大丈夫と思いき、後はいつものように食べて飲んだ。十六日(日)は快晴だったが、風が弱かった。見学者が多く、当院テントにも患者さんや旧友が訪れ、その対応に忙しかった。今年度は、お隣りの日病院に負けないようにと、凧を新調して、十二時からのコマーシャル凧揚げを待ちながら、飲んで食べていた。日病院は職員全員が、凧の調整に掛かりきりだっ

た。当方は凧糸の張り具合も確かめもせず、ただ飲んでいただけだった。正午になると、各企業、団体の凧が一齐に揚がりだした。当院の凧も揚げようとしたが、前日のように揚がらず、揚げる場所も無くなってきたので途中でやめてしまった。飲食の取りすぎで十分走れなかったせいでもある。日病院のいぐり凧は高く揚がって安定していて、表彰式でグランプリをもらわれた。当院は完敗で、今後は



キャンプに行くときは凧揚げも練習しようということになった。凧はどうしてこんなに人気があるのだろうか。特別な動力は必要

なく、自然の風を利用して空高く揚げるからと思う。凧に絵や文字を描けば大空を自由に羽ばたく。自然そのもののリズムだ。空高く揚がれば気分も高揚する。この自然との一体感が良い。凧の会は全国いたるところにある。百畳以上の大凧も揚がれば、爽快であろう。凧は夢と希望を運んでくれる。これに取りつかれると病みつきになる。来年も揚げよう！

面白証券マン今昔

北林 勇一

いささか古い話で恐縮ですが、私が教員をやめて自由な身になったのが昭和五十八年の春です。三反百姓で一家五人の生計を立てていた、父は息子が農業を継いでくれることを、願いながら昭和三十五年の一月に亡くなった。

その後十五年間、母が他界するまで一人で農業を続けてくれた。最近の農業は企業と違っていい程昔とは様変わりした。農業は儲からぬ仕事だと自覚しながら、朝から晩まで働き続け家族の生活を、

支えてくれた母の執念に頭が下がる。

息子である私に母は、ことあるごとに『とうちゃんや、昔から、薬り九そう倍、百姓、百そう倍』と言う、たとい話しがある。悪銭、身につかず濡れ手で粟を掴むようにして、稼いだ金はすぐになくなる。汗水を垂らしてコツコツ蓄えた金は、価値のある財産だ、と口癖のように教えてくれた母の教えが、この年になると素直に納得ができる。

ところで、ここで話題を大きく変える。私は昭和十七年春に岡山県新見市の至誠小学校で、徴兵検査を受けた。太平洋戦争の真っ最中で、二十歳の徴兵適齢の男子を壮丁と呼んだ。勤務していた県立農林学校で、柔道部の顧問をしていたので、体格は抜群。勿論、連隊区司令官の判定は甲種合格、希望兵科は、と聞かれたので砲兵、と答えた。

司令官いわく、いい体格をしているの。スポーツは、はい、柔道であります。何段か、三段であります。ニコッと微笑して、入営したら軍務に精励せよ。と褒められ、次の壮丁と呼ばれた。お前は第一乙種合格だ。現役入営だぞ。はい、分かりました。

「瘦せた長身の壮丁は、極度に緊張している。娑婆でどんなしごとをしていたか、はい、自分は株や、であります。途端に司令官は不機嫌になり、馬鹿モン、若モンが戦場で戦っているのに、労せず儲ける仕事は、今すぐに辞る。ハ、ハイ分かりました。」

当今は証券マンと言え、超一流の仕事。いまだから言える戦時中のホロ苦い悪夢が蘇える。

二上山に登ろう

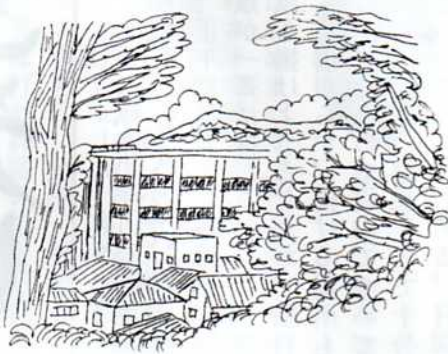
永森 祺郎

昔、立山室堂から入山して大日岳を登り称名滝へ下山したことがある。若さにまかせて大日岳からの下山道を駆け下った。ところがコンクリートの称名滝道路を歩き始めた途端に膝がガクツとなって歩けなくなりました。クッションのきく山道を快調に駆け下りたつもりだったが、体は疲労の極みに達していたのだろう。固い道路の衝撃がもろに膝を直撃して歩けなくなりました。誤だ。

江戸時代の人々の旅といえ、ひたすら歩くことであった。今でも旧街道が残っている。でこぼこ

した狭い土の道だ。さぞかし歩きにくかったと思うかもしれないが、その逆だ。草鞋のクッション効果もあって一日何十キロもの旅が可能だったのである。

健康のためには毎日歩くのが一番いいと、今ウォーキングブームである。高岡でも市街地を両手を振りながら歩いている人達を見かける。しかし石のブロックを嵌めこんだ歩道もある。市街地ばかりを歩いていると膝を傷める原因になる。上手な靴選びが肝腎になってくる。その点、高岡古城公園は小砂利を敷きつめるなどして整備が充分に行き届いていて、長時間歩き続けても疲れが少ない。



この古城公園から望む二上山は高岡市のシンボルとして、いつ見

ても雄大で美しい。私の世代の人なら小学生の頃、遠足で一度は登った思い出をお持ちだろう。今では自動車で行く山とのイメージが強い。しかし、至るところに遊歩道が整備されているのである。古城公園を歩いて足腰を鍛えている人達も、たまには二上山に登って足で土の感触を楽しんでみるのもいいのではないだろうか。

二上青少年の家の駐車場に車を置いて登る遊歩道が道幅も広く一番安全だ。バス停「二上山登山口」からの道は昔の登山道の名残りだ。頂上から仏舎利塔に至る自動車道の途中に「大師ガ岳」という立て札がある。ここから大師ガ岳へ登る道も歩きやすく快適だ。先日、初めて城光寺の滝の横からの道を登った。遊歩道となっているが傾斜のキツイところもあり登山道と呼んでもよいほどである。

今度、仲間をふたつに分けて青少年の家と滝に車を置いて登り、頂上でキーを交換して別の道を下る登山をしてみようと思う。「クマ出没」の看板も出ている。万が一のことを考えて一般登山並みにラジオをつけて鈴を鳴らしながら歩くことも忘れないでおこう。

透析室だより

§ 透析食講習会 §

平成二十二年四月二十五日(日)野村公民館調理室において透析食講習会を開催しました。

参加者 患者さん・御家族

十二名
スタッフ 九名

肉を切るプロ(元々肉職人)の華麗な包丁さばきや、エプロンなんて着けたことのない男性が真剣な表情で椎茸に飾り包丁を入れる姿など、日頃の透析室では中々見れない光景が随所に見られ、和やかな雰囲気では進みました。患者さんや御家族との親睦を深める良い機会なので、今後とも何らかのイベントを企画していきますので、皆様の御協力をお願い致します。(T・S)



